資料２

平成２７年１０月１４日
建築都市局都市計画課

平成２７年度市民意識調査
特定テーマ「人口減少・超高齢化を見据えたコンパクトなまちづくりについて」（中間報告・概要版）

１　調査の目的

本市では、２００３年（平成１５年）に策定した市町村の都市計画に関する基本的な方針である「北九州市都市計画マスタープラン」について、今後、急激に進行する人口減少、超高齢化を見据えて、コンパクトなまちづくりを実施する観点から、その見直しに着手したところである。

そこで、今年度は「人口減少・超高齢化を見据えたコンパクトなまちづくりについて」をテーマとし、都市計画マスタープランを見直すにあたり、まちづくりに対する取り組みの評価やまちの将来像、今後のまちづくりの方向性などについて、市民の意見を把握し、今後の施策検討の資料とする。

２　調査結果の概要

■　市内に居住する２０歳以上の男女個人３，０００人を、平成２７年６月１日現在の住民基本台帳を元に等間隔抽出。うち、有効回答数は１，３６５（有効回収率　４５．５％）。

■　現在の北九州市の都市イメージについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定層』の割合が高い項目は、「緑が多い」（６割弱）が最も多く、次いで「交通が発達し便利だ」（５割強）、「商店があちこちにあって買い物に便利だ」（５割弱）と続いている。

■　北九州市の問題・課題のなかで、特に対策が必要と思うことは、「人口減少や高齢化が進み、子どもが減っている」（８割弱）が最も多く、次いで「工業の生産や働く場が減少している」（３割強）、「郊外に大型店が増え、街なかの商店街が衰退しつつある」（３割強）と続いている。

■　北九州市の将来像について、都市らしいにぎわいやまちの魅力を高めるために、特に対策が必要と思うことは、「商業、福祉、行政など様々な機能ができるだけまとまって立地するコンパクトなまちにしていく」（４割強）が最も多く、次いで「観光で多くの人が集まるまちにしていく」（３割強）、「文化活動やイベントで多くの人が集まるまちにしていく」（３割強）と続いている。

■　これまでのまちづくりの取り組みについて、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足層』の割合が高い項目は、「大規模な公園の整備（勝山公園、グリーンパーク、長野緑地など）」（６割強）が最も多く、次いで「幹線道路の整備」（５割弱）、「公共交通の利用しやすさ（バス、電車、鉄道など）」（５割弱）と続いている。

■　これまでのまちづくりの取り組みで、今後、特に重点をおいて取り組む必要があると思うことは、「安全・安心に対する取り組み（暴力団対策・交通安全など）」（５割弱）が最も多く、次いで「高齢者や子育て世代にも利用しやすい公共施設の整備（市民センター、児童館など）」（３割強）、「まちのにぎわいづくり」（３割強）と続いている。

■　居住地について、現在住んでいる場所は、「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」（４割強）が最も多く、次いで「郊外の住宅地」（３割強）、「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」（２割弱）と続いている。

■　一方、住みたいと望む場所は、「生活に便利なまちの中心部（駅や商店街の近く）」（４割弱）が最も多く、次いで僅差で「まちの中心の周辺部（駅や商店街からやや離れた場所）」（４割弱）、「郊外の住宅地」（２割弱）と続いている。

■　居住地について、高齢期に住む場所を選ぶ決め手となる理由は、「日常の買い物や病院への通院など、日常生活の利便性の高い地域に住みたい」（６割強）が最も多く、次いで「住み慣れた場所に住み続けたい」（２割強）、「緑や自然の豊かな場所に住みたい」（１割弱）と続いている。

■　「コンパクトなまちづくり」を進めることについて、「必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた『必要である』は、９割弱となっている。

■　「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定することについて、「必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた『必要である』は、８割強となっている。

■　更に、「一定の人口の集積を保っていく区域」を設定することについて、どのような場所を「一定の人口の集積を保っていく区域」に設定したら良いかを尋ねたところ、「買い物、病院などへ行きやすい場所」（８割強）が最も多く、次いで「公共交通の便利が良い場所」（７割強）、「災害の危険性が少ない場所」（５割強）と続いている。

建築都市局計画部都市計画課　松本（課長）、井上（係長）
電話　０９３－５８２－２４５１